

Title	吐魯番出土文物研究会会報 第24号 : 特集・文書閲覧 I
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会会報. 24 p.1-p.4
Issue Date	1989-11-01
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78834
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

吐魯番出土文物研究会会報

1989年11月1日

吐魯番出土文物研究会

第24号

特集・文書閲覧Ⅰ

【は じ め に】

本年五月二九（月）、三〇（火）の両日、会員の關尾が龍谷大学大宮図書館において、大谷文書を閲覧する機会を得た。主要な目的は、昨年夏の第二回大会の際にその一部を閲覧・検討したいいわゆる周氏一族文書中の納税抄類のうちの残りのものと、それ以外の納税抄様式の文書についても、同様の検討を行なうためであるが、昨年に引き続いて幸いにいくつかの知見を得たので、以下に紹介しておきたい。

閲覧に際しては、前回同様、池田温『中国古代籍帳研究－概観・録文－』（東京大学出版会、一九七九年。以下、『籍帳研究』と略記）の訳読を参考にしたので、ここではこれとの異同を中心に紹介する。なお訳読の責任はあくまでも閲覧者である關尾個人にある。

☆

☆

☆

☆

A. 周氏一族文書中の納税抄

★大谷4888号文書（未紹介）

「TurfanG/2-4」と記された台紙により、単独で裏打ちされている。29×28.5

1. 周義敏納寶應元□

2. 布壹段。九月廿日、張□抄。

（余 白）

全二行。なお第一行目「義敏」の部分のみ墨色が濃く、書き間違えた文字の上に書写されている。

文書の標題については、「唐寶應元（七六二）年九月周義敏納布抄」とするのが妥当であろう。

★大谷4890号文書（『籍帳研究』190-1・2、438頁）

二紙連貼した状態で、「Turfan (G) 6」と記された台紙により、裏打ちされている。文書番号は共通だが、『籍帳研究』が二件としたように、内容的には連貼の必然性は認められず、本来は全く別個の文書であったと考えられるものである。

〔190-1〕全七行。第一行目の右側に挿入されている「欠壹文」の三字は、楕円で囲まれている。

第六行目の「□□」は、「悉抄」と判読できる。

また第七行目文末「尉悉」の下に一字分の残画が認められるが、「抄」字である可能性がきわめて高い。

〔190-2〕全七行。筆跡と墨色から判断して、第一、二行と第五、六行の書者が同一、第三行と第七行の書者が同一、そして第四行はそれ以外の書者というように、三人の書者によって作成されたと考えられる。

第二行目と第三行目の「曾」字は、第四行目や第六行目と同じく、「曾」字である。

★大谷4906号文書（『籍帳研究』194-1～4、440頁）

四紙連貼した状態で、「Turfan(G)6-10」と記された台紙により、裏打ちされている。これも文書番号は共通だが、『籍帳研究』が四件としたように、内容的には連貼の必然性は認められず、本来は全く別個の文書であったと考えられるものである。4890号文書もこれも、おそらくは納税抄を交付された納税者（周氏一族）が、税種ごとにでもまとめて連貼して保存したのか、あるいは二次利用する際に必要に応じて裁断した上で連貼したのか、いずれかであろう。

〔194-1〕全三行。

〔194-2〕全三行。

〔194-3〕全二行。第二行目の「十」字は判読できず。

〔194-4〕全三行。第三行目の「付官」の二字は判読できず。

★大谷5792号文書（『籍帳研究』201-1、443頁）

この5792号文書から5795号文書までは、連貼した状態で一枚の台紙によって裏打ちされており、台紙には「Turfan(G)1」と記されている。『籍帳研究』では、このうち5795号文書を、二枚の紙が接合されたものとしているが、一枚計八行と認められる。

全三行。第三行目文末の「讓抄」のうち、「抄」は判読しがたく、大谷5797号文書と比較すると、あるいははじめから省略されていたとも考えられる。

★大谷5793号文書（『籍帳研究』201-2、443頁）

全三行。ただし、第三行目は5793号文書の紙面余白部分の上に貼られた別紙に書写されているのもで、内容的にも直接関連しないので、厳密に言えば、新たな文書番号を付す必要があろう。

★大谷5794号文書（『籍帳研究』201-3、443頁）

全三行。

★大谷5795号文書（『籍帳研究』201-4・5、443頁）

全八行。ただし冒頭の三行は順接、後方の五行は天地を逆にして書写されている。

後方五行は、複数以上の書者にかかるが、そのうち、第四行目下方から第五行目にかけては、第二行目と第三行目の朱筆による自署「處忠」に筆跡が最も類似している。

★大谷5796号文書（『籍帳研究』200-2、442頁）

この5796号文書から5803号文書までは、それぞれ単独で台紙に貼付されているが、台紙に記号や番号は記入された形跡はない。

全三行。紙面前方に接合の形跡が認められる。第一行目の「預放納布」は、正しくは「預放縹布」と釈読すべきであろう。

★大谷5797号文書（『籍帳研究』197-2、441頁）

全二行。紙面前方と後方に接合の形跡があり、とくに後方には別紙が貼付されている。

第一行目の「兩」字右側の圈点と第二行目の「劉讓」は朱筆。

また紙面後方の余白は約二行分程度。

★大谷5798号文書（『籍帳研究』197-3、442頁）

全二行。紙面前方に接合の形跡が認められる。

第一行目の「兩」字は「壹」字の上に書き直した形跡がある。

第二行目の文末、「抄」字は文字ではなく、4890号文書（190-1）の第二行目と第五行

目の下方に確認された「＝」と同じような記号と思われる。あるいは、これをもって「抄」字の略記としたのであろうか。

また紙面後方の余白は約三行分程度。

★大谷5799号文書（『籍帳研究』200-1、442頁）

全三行。第二行目の「四月」の下に「二日」とある。

また紙面後方の余白は約三行分程度。

★大谷5800号文書（『籍帳研究』198-1、442頁）

全四行。紙面前方に接合の形跡が認められる。

第一行目の「曾」字は、4890号文書（190-2）と同じく「曾」字である。

★大谷5801号文書（『籍帳研究』198-2、442頁）

全四行（挿入の一行を含む）。紙面の前方と後方に接合の形跡が認められる。

全文朱筆であるが、紙面後方に、本文とは天地を逆にして、墨書されている二字が確認できる。

しかし、この紙面の下に接合された別紙には文字を確認できないので、この別紙は一旦5801号文書を任意の箇所て裁断したあと、あらためてその一部と接合されたのではないだろうか。この問題は、納税抄の作成と保存のあり方の問題に手がかりを提供することになろう。

★大谷5802号文書（『籍帳研究』197-1、441頁）

全二行。紙面前方に接合の形跡が認められる。

また紙面後方の余白は約二行分程度。

★大谷5803号文書（『籍帳研究』199、442頁）

全四行。紙面後方の上端に接合の形跡が認められる。

5798号文書同様、第四行目文末の「抄」字は、「＝」に近い。

★大谷5829号文書（『籍帳研究』193-1、440頁）

「Turfan (G) 9」と右上に記された台紙により、単独で裏打ちされている。なお右端に接合の形跡が認められる。また紙裏には七行にわたる名籍が、天地を逆にして記載されている。楷書の小字で墨色も濃く、本来はこちらが紙表であったと考えることもできよう。

全三行。

☆大谷5829号文書（紙背）

1. 康何蒲箇	石懷藏	益? 匡國	范感感	康定德	康感子
2. 康赤奴	康運徹	康玄意	□□□	令狐忠義	張□會
3. 曹小都	牛奴奴	汜□□	龍大忍	宋孝禮	成園? 園
4. 康金奴	宋赤智	楊文用	韓小政	□孝感	田大方
5. 魏永牒?	田慈山	張駱子	□□□	汜欽? □	韓元盛?
6. 馮思孝	皇甫宜令	任□□	張大舍	翟義方	王春? □
7. 曹元雄?	李天奴	陰□□	趙智□	趙什? 奴	王昭? 來?

第七行目上方に草書が認められるが、判読できない。

★大谷5832号文書（『籍帳研究』202-1、443頁）

この5832号文書はつぎの5833号文書と接合された状態で、「Turfan (G) 11」と記された台紙によって裏打ちされている。なおこの文書の右端には、別紙が接合されているが、文字は認められない。

全二行。

★大谷5833号文書（『籍帳研究』202-2、443頁）

全三行。接合されている大谷5832号文書とは別字。

★大谷5834号文書（『籍帳研究』191-1、439頁）

この5834号文書から5836号文書までは、連貼した状態で一枚の台紙によって裏打ちされており、台紙には「Turfan (G) 12」と記されている。

全二行。紙面後方の余白は約二行分程度。

★大谷5835号文書（『籍帳研究』192-2、439頁）

全二行。紙面後方の余白は約三行分程度。

★大谷5836号文書（『籍帳研究』193-3、439頁）

全一行。

★大谷5837号文書（『籍帳研究』207-2、446頁）

この5837号文書はつぎの5838号文書と一括して、「Turfan (G) 13」と記された台紙に貼付されている。

全一行。紙面後方の余白は約二行分程度。

★大谷5838号文書（『籍帳研究』192-8、439頁）

全二行。紙面後方の余白は約二行分程度。

B. それ以外の納税抄

★大谷1071号文書（小田義久主編『大谷文書集成』第壹、15頁）

全三行。第三行目で完結しており、後欠とは認められない。むしろ余白とすべきであろう。

第二行目の「康□」は「康仙」と判読でき、おそらくは交付者のひとりであろう。

また第三行目の「総」字は判読できなかった。内容からしても、別字の可能性が高い。

★大谷3388号文書（周藤吉之『唐宋社会経済史研究』、43頁）

全二行。

★大谷8077号文書（『籍帳研究』128、340頁）

「史料19 哈喇和卓出土」と記された袋に入れられている。

全三行。

（以上）

※なおこのほか、橘文書のなかにも、「唐廣徳四（766）年正月周思温納供使柴抄」があるが（『籍帳研究』205、445頁）、今回は時間の都合上閲覧できなかった。

※大谷文書の閲覧に際しては、龍谷大学文学部の小田義久先生、同大宮図書館の西山信行氏から格別のご配慮をいただいた。記して謝意を表したい。

事務局（連絡先） 〒182 東京都調布市国領町5-19-14

荒川 正 晴 方

TEL 0424(81)4633

吐魯番出土文物研究会（The Research Society for Turfan Relics）